

第9次交通安全基本計画（中間案）に対する 自工会の提言

平成22年10月
一般社団法人日本自動車工業会

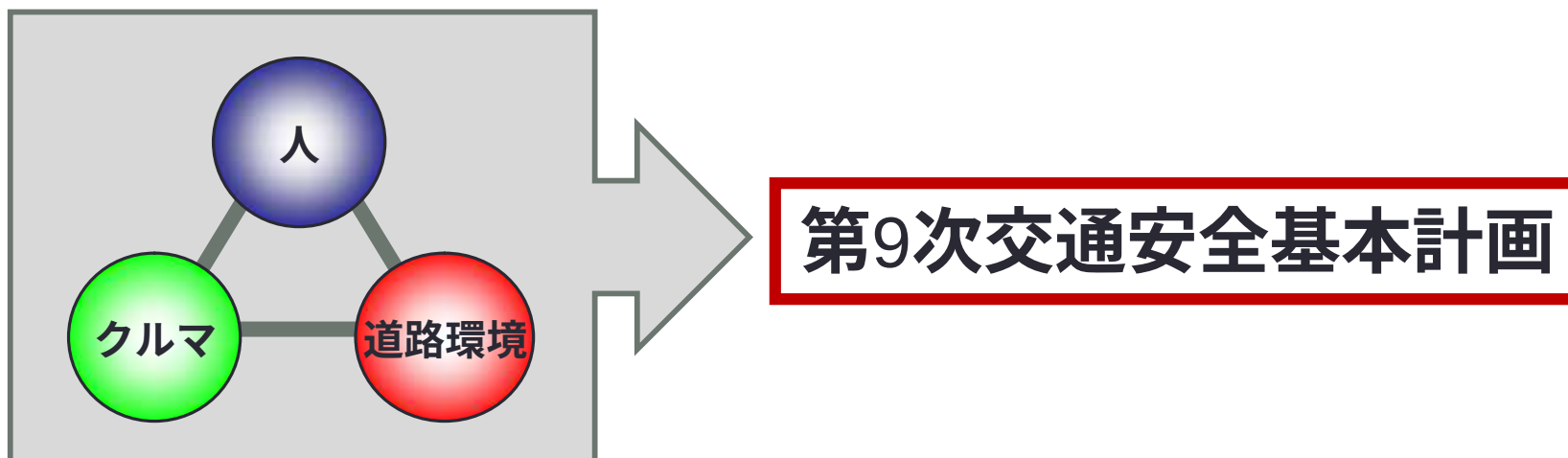
自工会の基本的考え方

●活力ある社会と安全の両立

- ・ 持続可能な活力ある社会の構築と矛盾しない、前向きな交通安全施策実施
- ・ クルマの有用性を損なうことなく、かつ国民の理解を十分に踏まえた施策実行

●事故予防施策の一層の充実

- ・ 人・道路環境・クルマに対し、事故そのものを減らす事故予防施策を一層充実



人に対する提言

- ① 住民参加型安全教育の充実、継続的实施
- ② 地域の交通安全活動のサポート体制充実
- ③ 対象別、課題別教育プログラムの充実
- ④ 国民の交通安全意識向上のための情報発信

＜地域密着・参加体験型プログラムの普及＞



▲ 自工会の高齢運転者向け交通安全教育プログラム『いきいき運転講座』（08年リリース）

道路に対する提言

- ①生活道路対策 (下記②幹線道路対策とのセットで)
- ②幹線道路の整備・充実
- ③自転車事故削減のための道路安全対策
- ④二輪車の安全な走行空間確保
- ⑤高齢社会を見据えた安全・安心な交通環境の整備
(含ITSインフラ整備: 詳細後述)

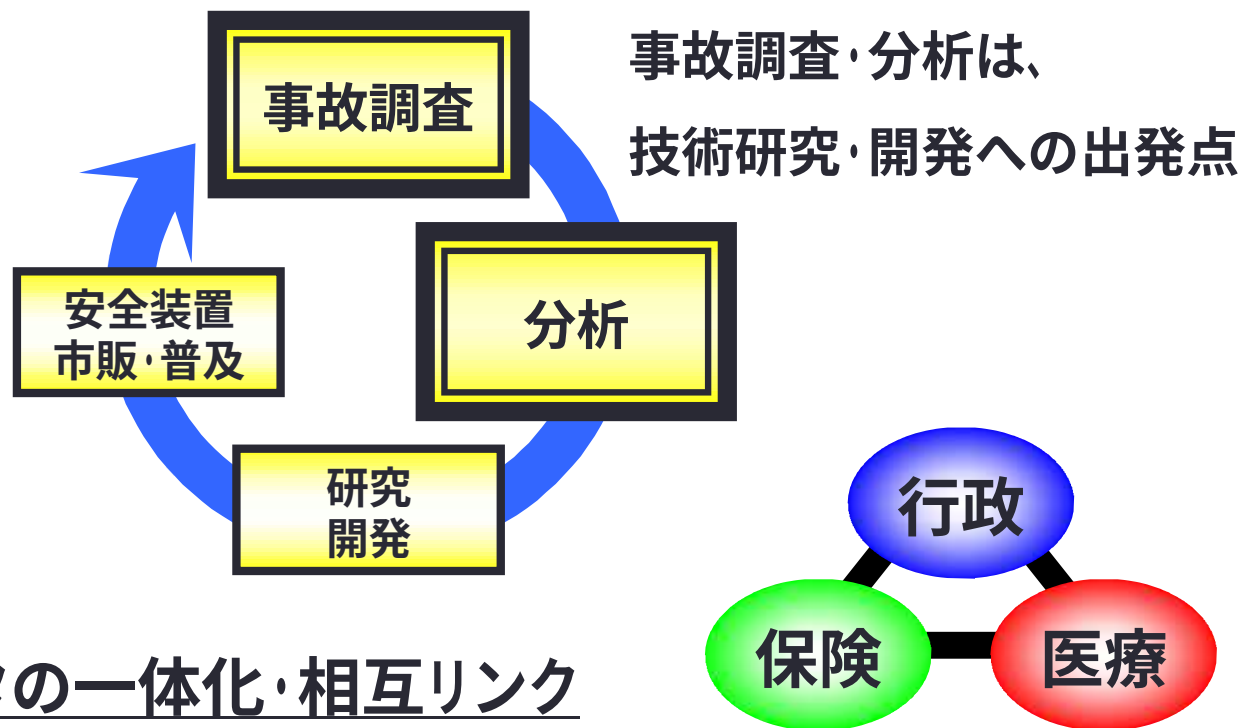
クルマに対する提言

より安全なクルマの研究・開発、普及のために

- ① 交通事故調査・分析体制のさらなる強化・充実
- ② 自動車アセスメント等の国際的ハーモナイズ活動の推進・充実
- ③ ASV普及のため、購入補助等のソフト面支援、及び通信インフラ整備

クルマに対する提言

①交通事故調査・分析体制のさらなる強化・充実



◆交通事故データの一体化・相互リンク

◆ドライブレコーダー*・EDR**を活用、研究・開発サイドへ展開

*ドライブレコーダー：衝突時の衝撃G等をトリガーに、前後の映像等の走行データを記録する装置

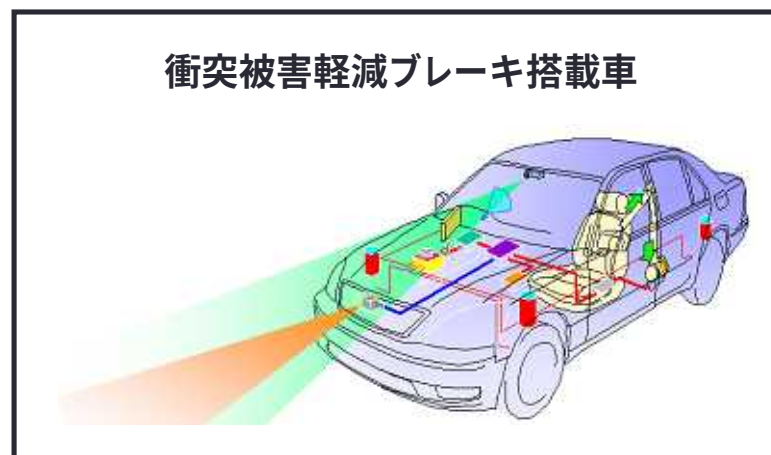
**EDR (Event Data Recorder)：一定の衝撃を受けた際、アクセル等の動作や車両の状況を記録する装置

クルマに対する提言

②自動車アセスメント等の国際ハーモナイズ活動の 推進・充実

【例】

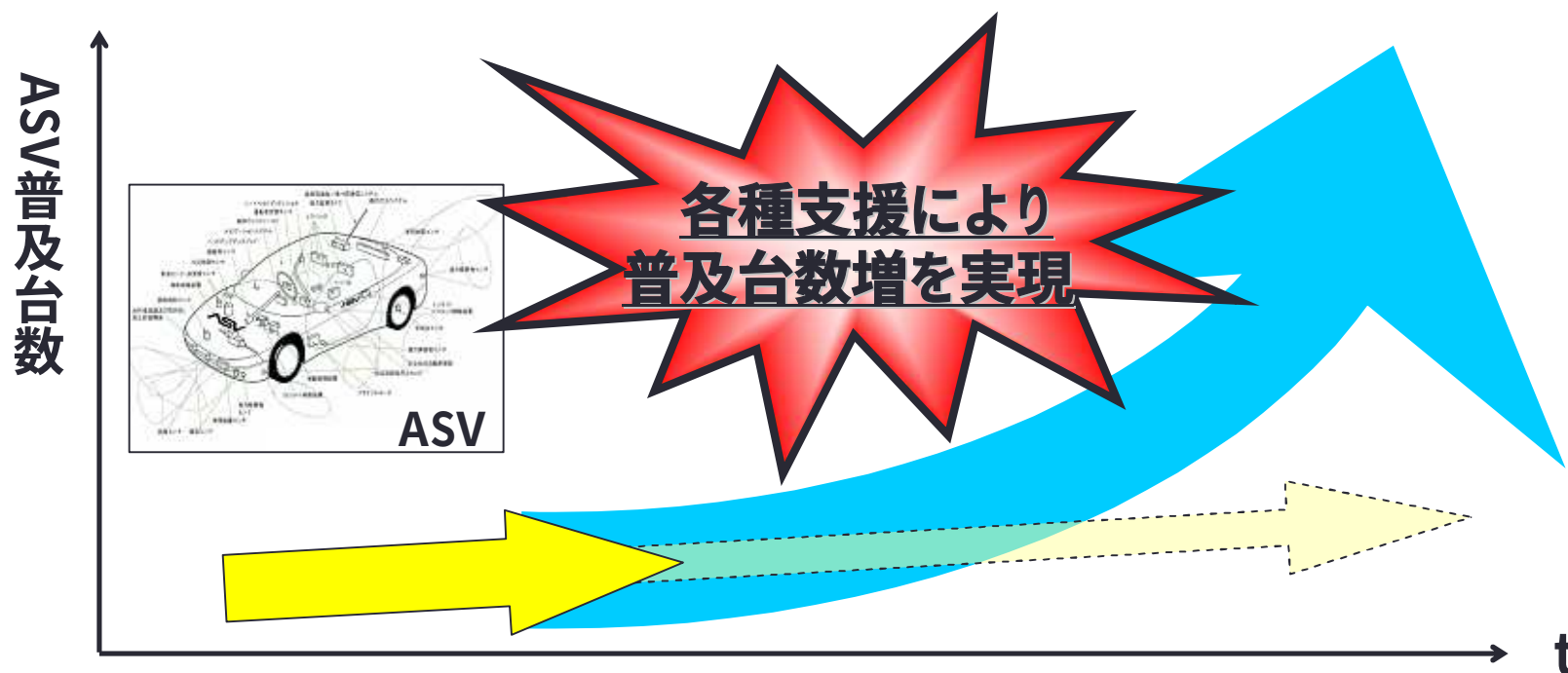
- ・ 予防安全技術 (衝突被害軽減ブレーキ等) の
効果評価方法の研究・確立



クルマに対する提言

③ASV*普及のため、購入補助等のソフト面支援、 及び通信インフラ整備

*ASV: Advanced Safety Vehicle



ソフト面支援

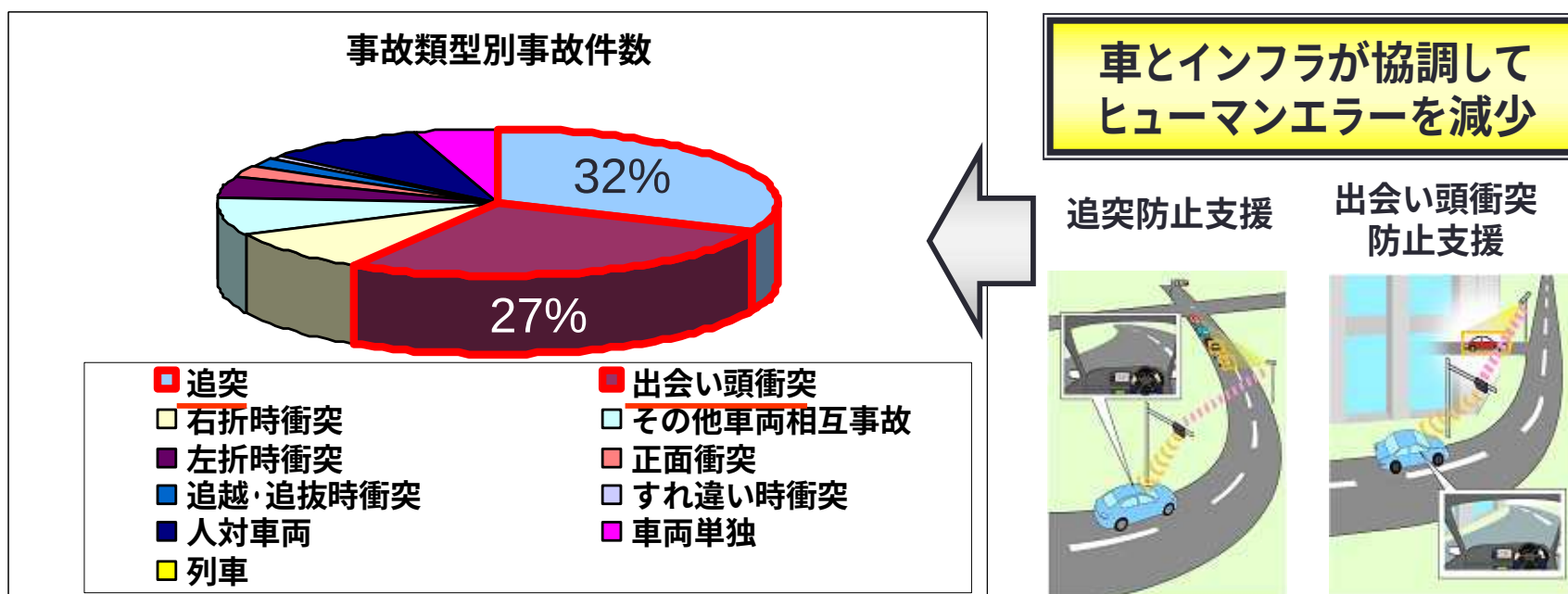
- ・ 各種優遇策 (購入補助、保険料等)
- ・ ユーザーへの有効性告知

通信インフラ整備

ITSに対する提言

①インフラ協調安全運転支援システムの早期全国展開、 更なる高度化に向けた研究開発促進

- ・パイロット事業の規模拡大とその後のインフラ整備の計画的実施
- ・路車間通信や車車間通信等先進技術の研究開発推進

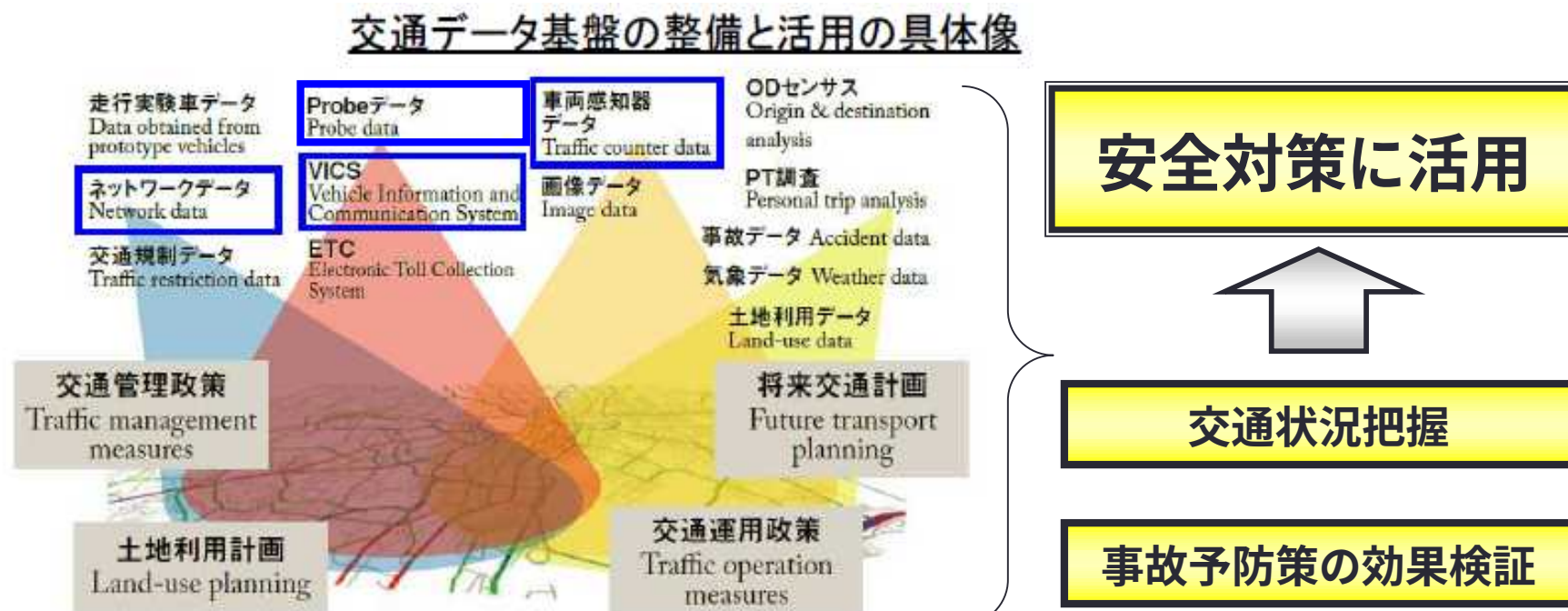


図出典：09年警察庁事故統計より作成

ITSに対する提言

②官民が連携した自動車走行情報（交通管制情報、プローブ情報等）の活用推進

- ・自動車走行情報の安全対策への活用のため、官民連携し、情報の共有と活用を一層推進



図出典：NEDO資料より自工会作成



END